

井波新聞

南砺市井波地域

人口
8122人
(11月末現在)世帯数
2965世帯
(同)主な特産品
井波彫刻
タマネギ
里芋
アルギットにら

彫刻師の多いまちです。井波彫刻協同組合の組合員約120人が工房を構えており、国の伝統工芸品指定産地の中で、これだけ多くの彫刻職人が従事しているところは他にありません。



120人が工房構える

藤崎 秀平さん(61)
井波彫刻協同組合理

独自栽培の里芋好評

山野地域づくり協議会

種芋産地の技術生かし

南砺市山野地域づくり協議会は、全国に里芋の種芋を出荷している産地の技術を生かして今年から独自に里芋を栽培し、同市飛騨屋で運営する直売所「ふれあい広場やまの」の目玉商品にしている。「煮崩れせず粘りがある」という高品質の里芋を市価よりも安く販売し、遠方からも買い物が訪れており、地域の拠点に活気を生んでいる。

住民の田んぼ10アを借り受けて5月から、里芋品種「大和」の栽培に取り組んでおり、今年の収穫量は1・7トンとなる見込み。協議会相談役の西村一郎さん(72)によると、贈答用にも使える出来栄となっている。

直売所は2014年、Aコープ跡地に山野地区集落活性化協議会が国の補助を受けて開設し、19年4月から地域づくり協

直売所で
今年から

議かが運営を引き継いだ。土日の午前8時〜正午に開店し、他地域からも多くの利用客が訪れている。



直売所「ふれあい広場やまの」

農作物を出品する住民のために直売所の利益を薄く設定しており、住民の生きがいづくりや交流の場となっている。

この時期は地元産を中心にニンジンやブロッコリー、カリフラワー、白菜などが店頭並ぶ。里芋を練り込んだコロッケやシフォンケーキ、チーズケーキなども人気で、今後も新たな加工品を模索していく。

西村さんは、地域づくり協議会の里芋が5、6日に完売する可能性があるとして、早めの購入を呼び掛けている。今年は27日まで営業する。

店頭に並んだ里芋

—南砺市飛騨屋

コスプレ撮影好調

クリエイター
桜哉さん

写真集出版に向けて撮影に臨む桜哉さん(手前左)
—井波別院瑞泉寺



コスプレと井波彫刻を組んだ創作活動に取り組む地元のクリエイター桜哉さんが、来年にも自費出版する写真集の制作を進めている。ツイッターで呼び掛けて集まった若い女性たちとともに、幻想的で前衛的な表現を目指し、井波別院瑞泉寺で撮影を行った。



「モラン工法」全国に

建設土木の野原工業(井波)が天然素材を使って田んぼのあぜの水漏れを防ぐ「モラン工法」を開発し、井波発祥の技術が全国に広がりをみせている。従来よりも耐久性に優れ、工期が短く低コストなことが利点。昨年12月に仙台南市の東日本大震災の被災地を復

モラン工法で、あぜに遮水壁を整備する作業員
11月、秋田県鹿角市内(野原工業提供)

あぜの水漏れ防止

興する国営事業に採用され、同社に全国から問い合わせが相次いでいる。
モラン工法は、火山灰や溶岩からできた粘土鉱物「ベントナイト」を砕いて顆粒状にして使う。あぜに重機で鋼製プレートを打ち込み、引き抜いてすき間を作り、そこにベントナイトを流し込むと、水分を吸って膨らみ遮水壁となる。
竹田実常務工務部長(67)が発案し、2011年から資機材の工夫を重ね、19年

野原工業に問い合わせ続々
耐久優れ、低コスト

7月に特許を取得。今年度の中部地方発明表彰で中部経済産業局長賞を受けた。1日当たり作業員5人で約100㎡の施工が可能となっており、防水シートやコンクリートを使う従来工法に比べ、工期は5分の1、費用は半額という。
仙台南市では13ヵ所を施工した。これまでに秋田県や富山市、射水市、南砺市など計35件で、総施工延長は約24kmに上る。同社には福島県、奈良県、山口県、広島県などから工法に問い合わせがあり、竹田常務は「全国の農家に喜んでもらえるよう、施工を広げていきたい」と意気込む。

彫刻技術でジュエリー